

～ ここにも活かせるエルメス技術 ～



AGF管にパイプひずみ計を挿入して
切羽前方の変位を測定する

Electronic

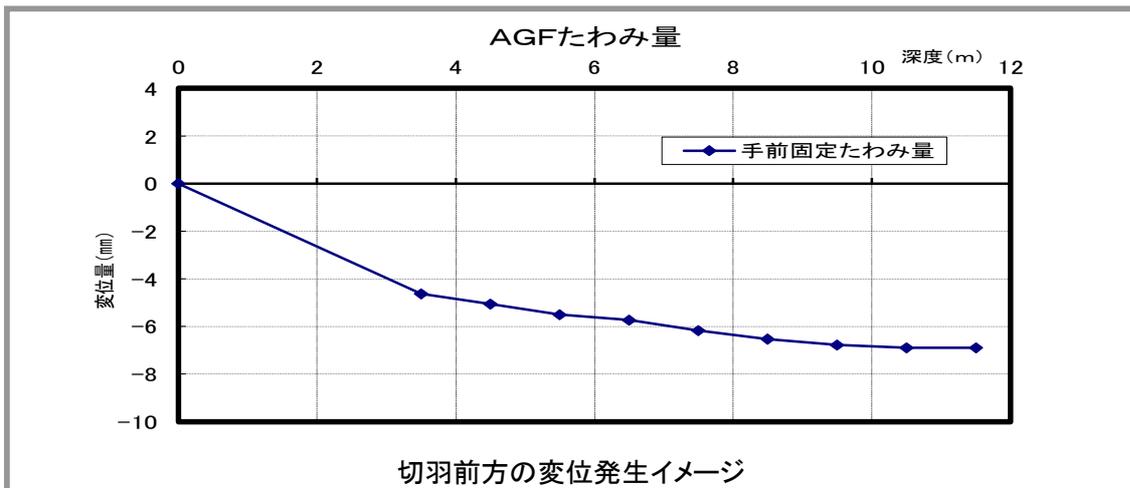
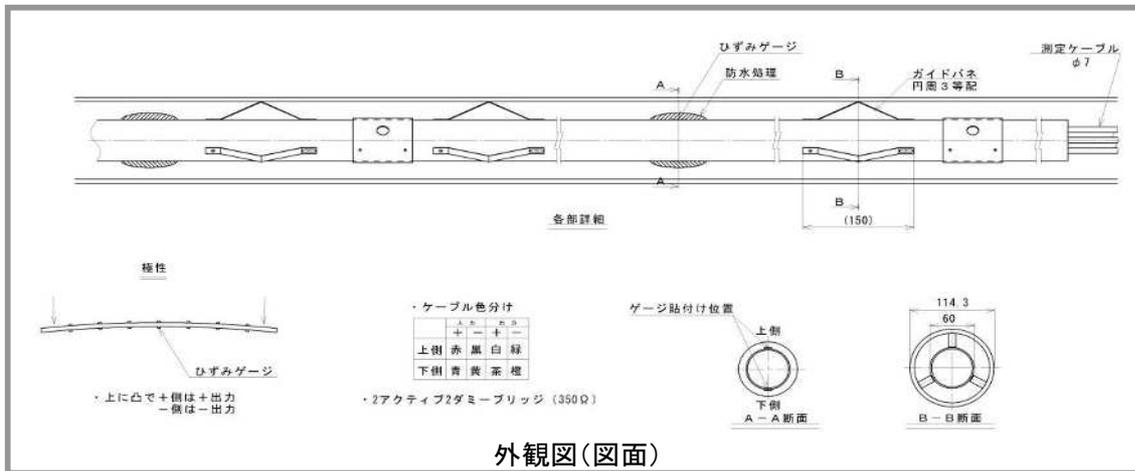
○ 山岳トンネル／地下構造	シールドトンネル	地盤／山留め	基礎／ケーソン
近接施工	斜面防災	コンクリート構造	ダム・メンテナンス
鉄道関連	道路関連	橋梁関連	エネルギー関連

◆ 概要

トンネル掘進において、切羽前方の変位を把握することは施工管理上大変有効です。これまでに切羽前方の変位を把握する試みは多々行われてきました。肝心なことは、掘削を止めないで計測を行うことです。計器の設置は容易に行えることが理想です。そこで簡便なパイプひずみ計を利用する方法を紹介します。

◆ 計測方法

下図に示すように切羽が到達する時点で、その前方ではすでに変位が発生しています。その変位を定量的に把握することは有効で、古くから求められていることです。AGF管にパイプひずみ計を挿入することで、AGF管のひずみ量から変位を算出するものです。変位の算出に当たっては、弾性支承梁の理論を適用します。



お問い合わせ



東横エルメス 計測技術部
東横エルメス 営業部

TEL (03) 5829-6088
TEL (03) 5829-6088

ISO9001